

大基委大評第 146 号

平成 25 年 3 月 15 日

京 都 精 華 大 学
学 長 坪 内 成 晃 殿

公益財団法人 大学基準協会
会 長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」を、大学評価委員会
において慎重に審議を行いました結果、別紙の通りとりまとめましたので、ご通知いたし
ます。

敬具

記

添付資料 「改善報告書検討結果（京都精華大学）」

以上

＜ 改善報告書検討結果（京都精華大学） ＞

[1] 概評

2008（平成20）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として11点、勧告として1点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言・勧告を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

研究環境については、研究活動の活性化を目的として、2009（平成21）年4月に「全学研究センター」を設置し、新たな研究支援に取り組んでいる。しかし、一定の成果は見られるものの、現状では論文、著書の数や科学研究費補助金の申請件数、採択件数が飛躍的に向上したとはいえないため、改善が望まれる。

教員組織については、評価当時からは改善が認められるものの、51～60歳の教員が人文学部で41.5%、芸術学部で35.3%と高く、依然として教員の年齢構成に偏りがある。引き続き、年齢構成の全体的バランスを保つよう、改善が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

なし

以 上

大基委大評第 148 号
平成 25 年 3 月 15 日

京 都 精 華 大 学
学 長 坪 内 成 晃 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「完成報告書」の検討結果について（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「完成報告書」を、大学評価委員会において慎重に審議を行いました結果、別紙の通りとりまとめましたので、ご通知いたします。

なお、検討結果に付されている「今後の改善経過について報告を求める事項」につきましては、次回大学評価申請時に『点検・評価報告書』の中で、その改善状況をご報告くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

添付資料 「完成報告書検討結果（京都精華大学）」

以上

＜ 完成報告書検討結果（京都精華大学デザイン学部） ＞

[1] 概評

2008（平成20）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学デザイン学部は、評価資料を提出する4月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、2006（平成18）年に3学科（ビジュアルデザイン、プロダクトデザイン、建築）をもって開設された同学部において、激変する「社会の動向と要請を確実に把握し、その課題内容を分析し、対応する解決策を模索する」人材の育成を目指していることが認められた。

教育目標として掲げられている3点は、教育内容・方法に関する指針となっている。

カリキュラムは、教育目標に則って編成されており、デザインの素養を入学後に修得する学生に合わせた導入教育と、技術的熟達だけでなく人間と社会を考えることのできる人材育成を目指す専門教育で構築されている。導入教育は「基礎講義・演習科目」として、人文科学・社会科学・自然科学・スポーツ実習・情報各分野の科目を配置し、教養教育を行っている。1年次前期には、「表現ナビ」を必修とし、大学での学びに必要な基本的姿勢や技能の修得に配慮している。外国語については、国際的に活躍できるデザイナーの育成を目指して「デザイン専門英語」を開設し、6単位を必修としている。ただ、趣旨は適切であるが、6単位で「国外においても提案できる能力を養う」のに十分であるか、検討が望まれる。専門教育は「学部専門講義科目」と「学科専門教育科目」とに分かれている。入学した学生は、入学時から3学科6コース中のいずれかのコースに配属されるが、基本的には1年次に基礎学習、2～3年次に専門学習、4年次には社会学習へと発展し、集大成として「卒業制作」を完成させる体系的な流れとなっている。

入学時および進級時のガイダンスは相応に実施され、1年間に履修登録できる単位数の上限設定も適切である。シラバスは、適切に整備されており、記載不十分な科目については、教育推進センター長名で記載内容の改善を求めることになっている。

ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、「デザイン学部FD委員会」が設置され、学生による授業評価アンケートの実施や研修会等が開催されている。

学生の受け入れについては、おおむね適切に管理されているものの、プロダクトデザイン学科と建築学科の収容定員に対する在籍学生数比率がそれぞれ0.86と0.68、入学定員に対する入学者数比率の5年間平均がそれぞれ0.89と0.76と低いので、改善が望まれる。

以上のことから、学生の受け入れについて問題が見受けられるものの、教育目標はおおむね達成されていると判断される。デザインのユニバーサルな側面について学習するための国際的素養教育も充実しているので、学部学科の特色を社会に示すとともに、教

育の質的向上の取り組みを続けることを期待する。

[2] 今後の改善経過について報告を求める事項
なし

以 上

＜ 完成報告書検討結果（京都精華大学マンガ学部） ＞

[1] 概評

2008（平成20）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学マンガ学部は、評価資料を提出する4月段階において申請資格充足年度（標準修業年限＋1年）を経ておらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、日本の大学で初めてマンガ表現者育成のために開設され、マンガ学科、マンガプロデュース学科、アニメーション学科の3学科で構成される同学部において、「独自の表現手法と世界観に拠って現代日本の視覚文化の代表とも言えるマンガ文化の伝承とその未来への発展に貢献する人材」の育成を目指していることが認められた。

教育目標として掲げられている3点は、教育内容・方法に関する指針となっている。

カリキュラムのうち、専門教育科目は実技系科目と講義系科目で編成されている。実技系科目では、4年次で学修の集大成としての卒業制作を完成させることとなっている。また、マンガ表現に不可欠なデジタル技術を修得するための科目も設けられている。

教養教育は「基礎講義・演習科目」として、人文科学・社会科学・自然科学・スポーツ実習・外国語の各分野とならんで情報系の科目を配置し、芸術学部、デザイン学部と共同で開講されており、おおむねバランスのとれたカリキュラムとなっている。1年次前期には、「表現ナビ」を必修とし、大学での学びに必要な基本的姿勢や技能の修得に配慮している。そのほか、導入教育として、入学直後のオリエンテーションでのワークショップの開催や1年次を対象とした「マンガ史概論」等の講義科目を必修科目と設定するほか、各コースに授業運営を支援する助手を配置するなど、きめ細かな対応が行われている。

履修指導、年間履修登録単位数の上限設定は、相応に実施されている。ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動については、「マンガ学部FD委員会」が設置され、学生による授業評価アンケートや研修会等が開催されている。

授業内容および1年間の授業計画については、「マンガ学部履修のてびき」や「講義概要シラバス」に明示されている。シラバス記載内容に不備がある場合は、教学推進センター長名で改善を求めるシステムとなっている。

定員管理については、適切に管理されていることから、社会からも容認され、国外からの入学者も多く、グローバルなニーズもあると考えられ、着実に新たな高等教育の領域を築いてきていると認められる。

ただし、教員組織については、マンガプロデュース学科において、大学設置基準上必要とされる教授数が3名のところ、現在は1名のみでの在籍となっているので、早急に是正されたい。

以上のことから、教員組織に問題があるものの、教育目標はおおむね達成されていると

判断される。

[2] 今後の改善経過について報告を求める事項

1 「教員組織」について次回大学評価申請時に改善状況について報告されたい。

以 上